〔增鏡三藤衣〕今上〇四條は二歳にぞならせ給ふ、淺ましき程の御いはけなさにて、いつくしき十善のあるじに定まり給ふ、

〔平戸記〕仁治三年正月十九日壬寅、〇中略抑此事、〇後嵯峨詐關東計申之條雖知、末世之至極、可悲可悲、十善帝位之運、更非凡夫愚賤之所思、〇下略

〔神皇正統記光孝〕佛も衆生をみちびきつくし、神も萬姓をすなほならしめんとこそしたまへど、衆生の果報品々に、受る所の性同じからず、十善の戒力にて天子とはなりたまへども、代々の御行迹善惡亦まち〳〵なり、

〔太平記三〕主上御沒落笠置事

忝モ十善ノ天子、〇後醍醐玉體ヲ田夫野人ノ形ニ替サセ給テ、ソコトモ不知、迷ヒ出サセ給ケル御有樣コソ淺猿ケレ、

〔太平記七〕先帝船上臨幸事

忠顯朝臣是ヲ聞キ給テ、〇中略何ヲカ隱スベキ、屋形御中ニ御座アルコソ、日本國ノ主、忝モ十善ノ君、〇後醍醐ニテ入ラセ給ヘ、

〔本朝文粹十三表白文〕天皇〇村上御筆法華經供養講說日問者表白

前中書王〇兼明親王

金輪聖主

金輪聖主、堯雲遍蓋、潤藥草於春甌、舜日重照、轉法輪於昏衢、〇中略

天曆九年正月四日

〔阿毗達磨俱舍論十二分別世品〕論曰、從此洲人壽無量歳、乃至八萬歳、有轉輪王生、減八萬時、有情富樂、壽量損減、衆惡漸盛、非大人器、故無輪王、此王由輪旋轉應導、威伏一切名轉輪王、施設足中說有四種、金銀銅鐵輪應別、故如其次第、勝上中下逆次、能王領一二三四洲、謂鐵輪王王一洲界、銅輪王二、